

(様式)

## 平成29年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・授業や音楽朝会の中に身体表現を多く取り入れたことで音楽を楽しむ児童が増え、必要なリズム感が身に付いてきている。
- ・ペア学習やグループ学習を増やし、学び合う場を設けたことで、一人ひとりの技術が高まってきている。
- ・発問やワークシートを工夫したことで、思いや意図をもって表現を工夫する様子が見られるようになった。

#### (2) 課題

- ・段階的、系統的に学習することができるように題材を構成したところ、繰り返しの学習による定着は見られたが、過去に得た知識や技能を新しい学習に生かすことに課題を感じた。
- ・一人ひとりの更なる技能向上のために、児童の実態に合った指導内容や指導方法の工夫が必要である。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率 (経年比較)

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年			
第5学年		(第4学年時)	
第6学年		(第5学年時)	(第4学年時)

#### (2) 分析 (観点別)

##### ① 中学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
歌唱や器楽など、様々な活動に関心をもち、すすんで取り組んでいる。 <u>苦手な活動にも熱心に取り組む、出来るようにしようとする児童が多い。</u>	曲想から音楽のよさを感じ取り、 <u>ふさわしい表現をしようとする様子が見られる。</u> <u>一方で、得た知識や技能を生かして表現を工夫することが</u>	<u>範唱や範奏を聴いたり楽譜を見たりして活動に取り組んでいる。</u> 歌唱においては自然で無理のない声で歌っているが、 <u>声を合わせて歌う技能が</u>	楽しんで音楽を聴いている様子が見られる。 曲想及びその変化に気付いて聴くことができるが、 <u>感じたことや気付いたことを友達に上手く伝え</u>

	<u>上手くできない実態がある。</u>	<u>不十分である。</u> 器楽においては音色に気を付けて演奏できるが、読譜には時間がかかる。	<u>られないことがある。</u>
--	----------------------	---	-------------------

## ② 高学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
歌唱や器楽など、様々な活動に関心をもち、すすんで取り組んでいる。 分からないことは積極的に先生や友達に聞き、解決しようとしている様子が見られる。	曲想から音楽のよさを感じ取り、 <u>ふさわしい表現をしようとする様子が見られる。</u> 繰り返し学習により <u>音楽の要素や仕組みが定着してきているので、それらを生かして表現を工夫できるとさらに良い。</u>	<u>範唱や範奏を聴いたり楽譜を見たりして活動に取り組んでいる。</u> 歌唱においては、 <u>より響きのある歌い方を目指す必要がある。</u> 器楽においては、 <u>楽器の特徴に合ったパートを選択できるが、全体の響きを聴いて演奏することに課題がある。</u>	楽しんで音楽を聴いている様子が見られる。 <u>ペア学習やグループ学習により、感じたことを友達に伝えられる児童が増えてきている。</u>

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
感じたことを率直に発言できる雰囲気をつくる。 ペアやグループでの身体表現を充実させ、友達と一緒に歌ったりリズムを叩いたりすることを楽しめるようにする。 <u>ICT機器を活用し、目標を視覚的にとらえることで、児童の関心を高めていく。</u>	楽曲のイメージを膨らませて演奏するために、感じたことを、色や身近なもので表わせる。 ペア学習での、 <u>即興的な音楽づくりを積極的に取り入れて、工夫を出し合って表現するようになる。</u>	児童同士の教え合いにより個々の技能向上に繋げていく。 歌声を聴き合う活動を多く行い、自分の歌声に気を付けながらきれいな歌声で歌えるようにする。 簡単なリズム譜に親しませ、 <u>正しい奏法を繰り返し指導することで身に付けさせる。</u>	鑑賞の聴くポイントを一曲の中で1つとし、確実に気付けるようにする。 教科書の挿絵や図形楽譜などを用いて、視覚的に音楽の特徴をとらえるようにする。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
個にあった指導を心がけ、分からないことを解決することにより楽しい音楽表現ができるという認識を深めさせる。	中学年でもすぐに書ける簡単なワークシートを用意し、自分の工夫を友達と共有できるようにする。 <u>良い例を紹介して全体に広めたり、過去に学習した表現方法を紹介したりすることで、様々な表現の工夫があることに気付くようにする。</u>	歌唱では発声練習の方法を工夫することで響きのある声を作っていく。 <u>簡単な二部合唱、パートナースongを取り入れて声を合わせる楽しさを味わわせる。</u> 器楽では読譜に慣れさせるため、 <u>リズム譜の視奏や範奏を聴いて楽譜を指でたどる活動を多く取り入れていく。</u>	聴くめあてを分かりやすく示し、 <u>感じたことや気付いたことを整理しやすくするため、ワークシートを活用する。それらを伝え合うペア学習やグループ学習を多く取り入れる。</u> 幅広い音楽を聴いたり見たりして、楽器の演奏のまねや身体表現をして親しむ。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
自分の声や演奏に自信をもたせるため、主な旋律を全員で歌ったり演奏したりする活動や、 <u>ペア学習やグループ学習による学び合いの活動</u> などを取り入れていく。	音楽の要素や仕組みを繰り返し学習により定着させる。 <u>それらを表現に生かすため、ICT機器を活用する。良い演奏を聴いて自分たちの演奏に生かしたり、自分たちの演奏を聴いて改善点を話し合ったりする活動を取り入れていく。</u>	歌唱では呼吸及び発音の指導を丁寧に行い、 <u>豊かな響きで合唱するよさを感じ取らせる。</u> 器楽では多くの楽器と触れ合えるよう配慮し、基礎を繰り返し指導する。 <u>児童の実態に合った楽曲を選択することで、各声部や全体の響きを聴きながら演奏できるようにする。</u>	楽曲の譜例を見せることで、音楽の要素を理解して聴くようにする。 引き続きペア学習やグループ学習を充実させ、自分の感じたことを発表しやすい場をつくる。